



H25. 3. 1. №1309  
静岡県漁業協同組合連合会  
☎054-254-6011 Fax054-253-9343  
編集・発行＝指導部漁業振興課  
URL: <http://www.jf-net.ne.jp/sogyoren/>

### 1. ふじのくに農芸品フェア開催される 水産関係も多数参画

日本一高い富士山や日本一深い駿河湾をはじめとする多様な風土と温暖な気候に恵まれた本県では、多彩で質の高い農林水産物が生産されており、現在、これらを「ふじのくに農芸品」として紹介しています。この度、2月23、24日の2日間にわたり、農・林・漁業者や関係団体など県内一次産業に携わる者が一体となって、本県の農林水産物を一堂に集め、その魅力を紹介するイベントとして、「ふじのくに農芸品フェア」が静岡市のグランシップ（県コンベンションアーツセンター）において開催されました。

このフェアでは、海・山・大地の恵みが勢ぞろいした「おいしい！しずおかの博覧会」として、農芸品や加工品等の展示即売、農芸品を使ったフードコート、体験コーナー、食育フェア等が催されました。県内各地の旬の味覚や特産品にふれ、静岡の魅力を満喫しようと各日2万人を超える来場者があり、水産関係では、本会及びいとう・伊豆・内浦・富士養鱒・由比港・清水用宗・南駿河湾・焼津鯉節の各組合をはじめ、多くの漁業者団体や水産加工業者が水産物及び水産加工品の販売・試食などに数多く出展し、水産物のPRに努めました。

### 2. 財団法人静岡県漁船海難救済基金協会の解散が決議される

財団法人静岡県漁船海難救済基金協会では、2月13日静岡市において、理事会・評議員会を開催し、本協会の解散を決議しました。

本協会は、昭和45年の設立以来、一貫して漁船海難発生時の救済活動に必要な資金を供給することによって、漁業労働の安全と漁業経営の安定に資することを目的として活動を行ってきました。しかしながら、漁船勢力も衰え新規契約漁船数が減少するとともに、低金利時代の中、財産運用収入も減少する一方、救助活動を円滑に進めるための必要資金の供給は、県漁船保険組合による保険によってほぼ賄われ、現在では本協会の役割が縮小しており、一般の公益法人制度改革に伴い、本協会が単独で業務を継続していくことは困難であると判断しました。これにより、理事・評議員それぞれの全員賛成により、平成25年8月31日を存続期間の満了日として定款に定めることにより解散することを決議しました。

なお、解散に伴い現在保有する財産を有効活用するため、関連事業として救命救助機器類の購入やその講習会開催等の事故防止対策事業を実施していくことが同時に承認され、さらに、解散後の残余財産については、類似の目的を有する他の団体又は静岡県に寄附することが承認されました。ただし、いずれも県知事に対する解散認可申請等が必要な事項であるため、認可等の後、いずれも正式に有効なものとなります。

### 3. 国際協同組合年閉幕式開催 静岡実行委員会

2012年の国際協同組合年にあたり組織された国際協同組合年静岡実行委員会が1年間の活動を終了し、静岡市内において閉幕式を開催しました。式の冒頭、実行委員長であるJA

**安全・安心な水産物供給と活力ある漁業づくりに努めよう**

## 自立漁協の構築に向け合併・事業統合を進めよう

静岡中央会夏目会長が、「この1年間取り組んできた活動の全てが一定の成果を収め、また、その一部は県協同組合間提携推進協議会に引き継ぎ継続して実行していく必要があるため、参画している8団体のより一層の信頼関係を築いていきたい」と挨拶され、続いて事業報告及び会計報告を行い、それぞれが原案どおり承認されました。

なお、この1年間で取り組まれた主な活動内容は次のとおりです。

1月24日 開幕記念講演会（静岡市） 5月12日 記念植樹実施（富士宮市） 8月24日 ミュージカル「おもひでぽろぽろ」公演（静岡市） 10月20日～26日 海外視察研修（イギリス他） 11月18日 安倍川流木クリーンまつり（静岡市） 11月24、25日 産業フェアしずおか2012 出展・オリジナルブランド「静岡発さばじゃが君」開発（静岡市）（ ）内は開催地

### 4. 漁船サバイバル訓練実施される 県機船底曳網組合が主催

2月8日戸田漁協にて県機船底曳網組合の主催により、漁船サバイバル訓練講習会が開催され、漁業者及び漁協関係者18名が参加しました。戸田漁協の荒川継雄専務理事の挨拶後、座学として、清水海上保安部の指導により本県の実験事故に関する安全講和、続いて、高階救命器具（株）及び特定非営利法人 水産業・漁村活性化推進機構による「ライフジャケットの作動体験・安全点検について」とした講義が行われ、参加者は、それぞれのライフジャケットの安全点検を行いました。さらに、引き続き実地訓練として、海上保安部の指導により「AED・心肺蘇生法訓練」が行われました。

### 5. 新実習船「わかたか」が進水 県立漁業高等学園

県立漁業高等学園では老朽化した実習船（平成元年竣工、4.9トン）に替わり、より安全で機能を充実した新実習船を建造し、2月20日焼津において進水式を執り行いました。大型となった新船に設備する機器は、卒業後乗船する大型漁船に装備されている機器を搭載したほか、安全性を考慮して救急救命設備を充実、航海中の海中転落防止の観点から全員が座れるよう座席を用意、また、航海機器は最新鋭の機器を搭載し、室内灯・投光機は省エネ対策としてLED灯を使用しています。新実習船の主要目は次のとおりです。

総トン数6.6トン 全長15.5m 幅3.1m 深さ1.28m 機関出力450kw 定員23名

### 6. 漁業経営セーフティーネット構築事業へ加入を！ 燃油・餌料価格高騰対策

漁業者と国が毎年度積立を行うことにより基金を造成し、燃油や配合飼料の価格が急騰したときに基金から補填金を交付する事業が平成22年度から実施されています。平成24年度には、漁業者への支援がより充実するよう補填基準が引き下げられ（7中5×100%）、補填金交付実績の回数や単価が増加するなど、漁業経営の安定への一助となっています。

一方、25年度以降も中東産原油の市況及び為替レートの先行きは引き続き不透明であり、国内の漁業用燃油価格への影響が懸念されています。

現在、平成25年度の新規加入申込を受付けていますので、より多くの漁業者の方々に利用していただきますようお願いいたします。また、各漁協におかれましても、申込期限の25年3月末までに手続きが完了するようご周知・指導いただきますようお願いいたします。

**漁協系統事業の全利用運動を進め組織の強化を図ろう**